



MANSORY PORSCHE Panamera Turbo

マンソリーの個性溢れるスタイリングが 煌めく異彩を具現化する

新世紀のメジャーブランドであるマンソリー。常にオリジンを追求する姿勢は、ハイエンドモデルを中心にファンを拡大し続ける。そんな魅力の一端をハナメーラから感じてみたい。

写真●田村 孝 文●池上孝志(af imp.編集部)



コンプリートカー：ターボベース ¥23,800,000～(税別)
4Sベース ¥16,800,000～(税別)
※装着するパーツによって価格は異なります。



1 ボンネットはすべてカーボンで筒形状であるが、塗装とカーボンの見せ方で3つをラインアップ。こちらはカーボンを全面で見せるエアロボンネットだ

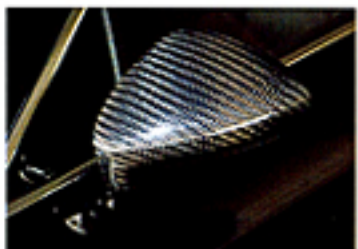
●SPEC

- ワイドボディキットI LEDパッケージ2 ¥4,042,500
- エアロボンネットI ¥732,500
- 純正リアスポイラー-CARBON ¥409,500
- フェンダーウイングシート ¥231,000
- ドアミラーwith LEDフラッシャー ¥267,750
- ヘッドライトカバー ¥231,000
- タービンデザインホイール(9x22) ¥362,250
- タービンデザインホイール(10x22) ¥367,500

コンプリートカー 関東オートプロジェクトD
TEL:048-998-1288
<http://www.autoproject-d.com/>
パーツ 関東ラガーコーポレーション
TEL:048-853-2222
<http://www.mansory.co.jp/>



1 サイドスカートだけでなく、前後のフェンダーボリウムに合わせてドアの下部にパネルを追加することで、自然なラインを見せる



1 ボディキットとは別でカーボンのサイドミラーも用意される。細く並べられたLEDのフラッシャーが内蔵されたタイプもある



1 タービンデザインのホイールは競速モデルで22インチをセット。スリットの入るカーボン部分がフェンダーウイングシートとなる

また、今回の撮影車では特にエアロボンネットや各ボトムなど、至る所にカーボンをあしらうことで、スベシヤリテイカーのオーナーも納得させる高い質感が与えられている。それらが相乗して全身から放たれる異彩が、マンソリーのスベシヤリテイへの信念を深く印象づけている。

ハイエンドに個性を与えるマンソリーの美学
2004年にブランドとして立ち上がったというマンソリー。ニュージエネレーションとも言えるマンソリーは、オリジナリティ溢れる革新的なスタイリングをスベシヤリテイカーに存分に与えることで、世界中から注目を集めている。
そんなマンソリーが仕上げる、新世代ボルシエとも言えるバナメーラは、写真の通り、ダイナミック4シュータースポーツの大柄なボディをひときわ解烈に映し出す。
キット化されたワイドボディには、前後のフェンダーエクステンションはもちろん、GTカーを彷彿とさせる前後バンパー、それを繋ぐサイドスカートとボリウムを合わせるドアパネル、そしてエキゾーストシステムまで含まれる。特にフルバンパーとなるリアスカートは大きく捲れ上がるようなラインだけでも十分個性ではあるが、シャープなディフューザー形状の中央に逆台形でセンター出しマフラーをさらにインストールする。しかし、さり気なく両サイドにもマフラーのエンドパイプを覗かせるところに、究極なルックスを極限まで追求する、マンソリーの強い気概が伝わってくる。

また、今回の撮影車では特にエアロボンネットや各ボトムなど、至る所にカーボンをあしらうことで、スベシヤリテイカーのオーナーも納得させる高い質感が与えられている。それらが相乗して全身から放たれる異彩が、マンソリーのスベシヤリテイへの信念を深く印象づけている。



1 純正のリアウイングに替えるようにセットするリアウイング。こちらはターボ専用だが、NAモデルも別にラインアップされている



1 捲れ上がるようなデザインのリアスカート。マフラーはセンターの逆台形に入る以外にも、両サイドからさり気なく出されている点も注目